



草刈り・道路清掃ボランティア

町ボランティアと いわき明星大学が連携

広野町第2回集落活性化事業

いわき明星大学人文学部現代社会学科 兼子 詩織さん

今回、8月6、7、8日と広野町で行ったボランティア活動を通してさまざまなことを学びました。初日の午前中は昼食の準備を行ったのですが、その際、手間取ってしまいお手伝いとして役に立てたのかな？と思ったりしました。何よりも、羽釜を使ってたき木での炊飯は初めてでおいしく炊き上がったのには感動しました。ほかにも、昼食後おにぎりを作るのを手伝ったのですが、その時真ん中を少しへこませると良いということや丸い形の方が良いといったことを教わり、勉強になりました。それから1日目の午後と2日目は県道249の白線出しや伐採した邪魔な木の枝を除去するなどの作業をしました。普段全くやらないことばかりだったことと暑さで疲労感は結構ありましたが、綺麗になったのを見て頑張っただけでやれば綺麗になるんだ、と感じました。そして地域の方からアイスの差し入れを貰ったり、手の込んだ昼食を頂いたり大変温かいもてなしを受けました。今回暑く慣れない作業に疲れてしまった私たちにとっては大変ありがたかったです。どうもありがとうございました。差し入れを頂き、もっと頑張ろう、と思いました。普段あんなに自然のある場所に行かないのでとても癒されました。もし、また今回のような実習があったらまた参加してみようと思いました。

いわき明星大学人文学部現代社会学科
高島 勇樹さん・廣瀬 史知さん

私たちは、災害ボランティア実習で生活道路の清掃作業と海浜清掃を行いました。生活道路の清掃では道路の脇にはみ出している枝を切ったり、道路の白線を出す作業をしました。経験のない作業だったので、戸惑うことが多くありとても大変でした。2日目はだいぶ慣れてきて効率よく作業を行うことが出来ました。暑い中の作業だったので、アイス差し入れして戴いた時はすごく嬉しかったです。3日目の海浜清掃は砂浜のゴミ拾いを行いました。浜辺には自分が思っていた以上にゴミが散乱していて、とても悲しく思いました。このような光景を見て自分達もマナーには気をつけなければならないなと思いました。この3日間のボランティア活動でボランティアについての大切なことを学びました。これも地元の人達に協力していただいたおかげだと思います。お昼ご飯はとってもおいしかったです。3日間ありがとうございました。

第2回第平地区集落活性化事業―県道上戸渡・広野線単線部分の草刈りと道路清掃ボランティア活動が8月6日と7日の両日に行われました。いわき明星大(授業責任者石丸純一教授)教職員と学生ら延べ41人と町ボランティア13人が参加しました。

同大は、平成16年の新潟県中越地震をきっかけに、災害支援を担う人材の育成や学生の自己形成、中山間地域の現状に理解を深めることを目的にボランティアを実施。18年には一般教育科目の選択科目として「災害ボランティア演習」を開講し、被災地での支援物資の仕分け作業や仮設住宅周辺の整備、会津地方や山形県では除雪作業など22回の活動を行ってきました。第平地区への支援は今回が2回目となります。今回の作業は、同地区の鈴木恵太郎区長、町内ボランティアの方々が高所作業車、チェーンソーなどで伐採した道路沿いの樹木の片付けと約7キロにわたる道路の白線を覆っていた土の取り除き作業と羽釜での炊き出しも行いました。鈴木区長は、「第平地区の唯一の生活道路で、災害時にはいわき市への避難道路となる。作業は高齢化が進み、人手が少ない中で行うのは大変でしたが、今回、本当に助かった。」と話していました。

なお、いわき明星大教職員と学生ら25人は8月8日に広野町の北釜く折木川海岸清掃ボランティアも実施しました。学生らは、『思っていた以上にゴミが散乱していたので悲しかった。マナーを守らなければならないと思った。』と感想を述べていました。



海岸清掃ボランティア



羽釜でお米を炊きました

道路清掃の様子